

会議名称	令和7年度 第2回 門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和7年9月29日（月）午後2時から午後3時10分まで
開催場所	門真市役所 別館3階 第3会議室
出席者	<p>(委員) 清澤委員、朝倉委員、川島委員、山下委員 【出席人数 4人／全6人中】 ※欠席：中出委員、わかぎ委員、</p> <p>(事務局) 山市民文化部長、西岡市民文化部次長 清水生涯学習課長、中村課長補佐、福本主査、桑原係員 特定非営利活動法人トイボックス 別府館長、松浦氏</p>
案件	1. 市民アンケート調査の結果について 2. 門真市文化芸術推進基本計画素案（中間見直し版）について 3. 計画改訂のスケジュールについて
傍聴者数	0人
担当部署	<p>(担当課名) 市民文化部 生涯学習課 (電話) 06-6902-7139（直通）</p>

【事務局】

定刻となりましたので、ただ今より、令和7年度第2回門真市文化芸術推進審議会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます生涯学習課の中村と申します。よろしくお願ひします。

本日は、委員6名中、4名がご出席をいただいており、門真市文化芸術推進審議会規則第3条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日、中出委員、わかぎ委員は、都合がつかせず、欠席となっております。

なお、第1回審議会にて、会議の公開が承認されておりますが、本日、傍聴者はいらっしゃらないことをご報告いたします。

また、後日、議事録を作成させていただくために、会議の模様を録音させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、本日の資料の確認をお願いいたします。

本日の資料は、

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 門真市文化芸術推進基本計画中間見直しにかかる市民アンケート調査票

- ・ 資料 2 門真市文化芸術推進基本計画中間見直しにかかるアンケート調査報告書
- ・ 資料 3 門真市文化芸術推進基本計画素案（中間見直し版）
- ・ 資料 4 計画改訂のスケジュール

本日、追加の資料として、

- ・ C 委員からのご意見
- ・ 60 歳以上の回答者のデータ集計について

以上でございます。資料は揃っておりますでしょうか。もし、不足の資料がございましたら、お申し出ください。

本日の案件は、次第に記載のとおり、

案件 1 市民アンケート調査の結果について

案件 2 門真市文化芸術推進基本計画素案（中間見直し版）について

案件 3 計画改訂のスケジュールについて

の 3 件であります。

それでは、以後の議事進行につきましては、清澤会長より次第に沿って順次進めさせていただきます。では清澤会長よろしくお願ひいたします。

【会長】

それでは、私の方で進めさせていただきたいと思います。次第ですけれども、案件 1 ということで、まずアンケート調査結果ですね、これからご報告お願いします。

【事務局】

案件 1 の説明に入る前に、C 委員からいただいたご意見について、ご紹介をさせていただきますので、本日配付いたしました「C 委員からのご意見」と書かれた資料をご覧ください。今回、都合がつかず欠席となったことからいただいたご意見でございます。

門真市に限らず、多くの市政で文化教育に対しての委員会などが設置され、意見を交換なさっていることは演劇人としてはありがたい現象ではあります。ただ、いずれの市でも具体的な成果や、活動を模索している現実があり、実際の進行がとても遅いと感じることもよくあります。その一つの大きな原因が広角に考え過ぎている結果だと、私は思います。 音楽も、美術も、演劇も…とてんこ盛りにすると全部が薄まってしまいます。

○○な町を目指すのであれば、その○○とはなにか、そこを絞っていかないと門真市の今後の文化発展は望めないのでしょうか？いま、関西フィルさんと密な関係を築かれようとしているのであれば、「音楽の町、門真」でもいいと思います。そこをどれだけ深堀していくかで、他の文化にもいい影響が出てくるのではないかでしょうか。

以上でございます。

では、 案件1 「市民アンケート調査の結果について」 説明に入りたいと思います。

6月の第1回審議会からお日にちが空きましたので、まず最初にアンケート調査票から説明いたします。

資料1 「門真市文化芸術推進基本計画中間見直しにかかる市民アンケート調査票」をご覧ください。

問1から問5では、回答者の年齢などの属性と、文化芸術活動に関わりがあるかどうかを質問しています。

問6から問8では、市の文化芸術活動全般について質問をしており、問6では市の文化芸術活動が活発になったと思うかどうか、問7では、問6で「活発になった」と答えた人に対して、文化芸術活動を取り巻く環境において実感した変化についてお聞きしています。

問9から問12では文化芸術の「活動」状況について質問しており、問9では文化芸術の活動をしているかどうか、「活動していない」と答えた人に対してその理由を問11で質問しています。

問13から問15は、文化芸術の「鑑賞」の状況について質問しています。「活動」の部分の質問と同様に、「鑑賞していない」と答えた人に対してその理由を聞いて

います。

4ページに入りまして、問16では、文化芸術にかかる情報をどのような方法・媒体で入手しているか、問17では市内の文化的資源等の認知度について、問18は文化芸術振興全般にかかる自由記述となっています。

アンケート調査票の説明は以上でございます。

次に、アンケート調査結果について抜粋して説明いたします。

資料2 門真市文化芸術推進基本計画中間見直しにかかるアンケート調査報告書の1ページをご覧ください。アンケート調査結果の概要から説明いたします。

アンケート調査の実施期間は、令和7年6月20日から7月31日までの期間で、2,079名の方にご回答いただきました。

回答者の内訳としては、ルミエールホールや公民館等の公共施設利用者が958件、老人福祉センター及び高齢者ふれあいセンターの利用者が259件、門真西高校及び門真なみはや高校の3年生が307件、広報紙及び市公式LINEから245件、市職員が310件となっています。

続いてアンケート調査結果について説明いたしますので、2ページの問1「あなたの年齢をお教えください。」をご覧ください。

アンケート回答者全体の3分の1以上が70歳以上の方からの回答となっており、次いで市内高校にアンケートへの回答協力をお願いしたことから、中学生以上の10代の方からの回答が16.9%となっています。

次に、4ページの問5「現在、どのような形で文化芸術活動に関わっていますか。」の質問については、回答全体でみると「特に関わっていない」が45.6%で最も高く、次いで、「鑑賞や観覧など、観客として関わりがある」が22.8%となっています。10代以下の回答に着目すると、「特に関わっていない」の回答が79.8%と非常に高くなっています。

続いて、4ページの下段、問6「この5年間で、門真市の文化芸術活動は活発になったと思いますか。」をみると、「とてもそう思う」、「そう思う」の回答の合計が約40%となっています。計画策定から現在までの5年間については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていたという状況下にも関わらず、約4割の方に文化芸術活動が活発になったと回答いただいたおり、市等の文化振興施策について一

定の効果があったと考えられます。

次に、5ページの問7につきましては、問6で文化芸術活動が活発になったと答えた人に対して、市の文化芸術活動を取り巻く環境の変化を質問するもので、「盆踊りなどの地域のイベント等に参加しやすくなった」が39.3%で最も高く、次いで「文化的な魅力や雰囲気が増した」が33.5%となっています。

次に、13ページの問9をご覧ください。「この1年間にどのような文化芸術の分野で活動されましたか。」の質問について、回答全体でみると「特に活動していない」が48.0%で最も高く、次いで、「音楽」が19.7%、次に「地域における文化活動」が8.9%となりました。10代以下に着目すると、「特に活動していない」が69.6%となっており、問5の「文化芸術活動に関わっていますか。」の設問においても文化芸術活動に関わっていないが約8割となっていることから、10代以下における文化芸術活動への関わりが薄い状況になっているというアンケート調査結果となりました。

続いて、15ページの問11については、問9で「特に活動していない」と答えた人を対象に、文化芸術活動をされなかった理由をお伺いするもので、回答全体でみると、「文化活動にあまり関心がない」が39.3%、次いで「時間的余裕がない」が36.4%、「活動に関する情報が少ない」が15.0%となっています。10代以下では、「文化活動にあまり関心がない」が60.2%と、非常に高くなっています。

次に、17ページの問13「あなたはこの1年間にホールや映画館などで鑑賞した文化芸術はどのような分野ですか。」をご覧ください。回答者全体でみると、「音楽」が35.2%で最も高く、次に、「映画」が30.0%、「特に鑑賞していない」が27.3%となっています。10代以下では、「特に鑑賞していない」が49.0%で最も高くなっています。

続いて、18ページの問14については、問13で「特に鑑賞していない」と答えた人に対して文化芸術の鑑賞をしなかった理由をお伺いするもので、「時間的余裕がない」が35.1%、「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」が27.3%、「興味のある催しものが少ない」が21.0%となっています。

次に、19ページの問15「今後、どのような文化芸術を鑑賞したいと思いますか。」については、全体でみると「音楽」が47.1%で最も高く、次いで「映画」が34.4%、「演劇、ミュージカル」が28.5%となっています。10代以下でみると、「映画」が

35.6%、「音楽」と「特に鑑賞したいと思わない」が30.1%、「マンガ、アニメーション」が20.9%となっています。

次に、問16「公演や展示会などの文化芸術情報は、主にどちらから入手していますか。」の質問に対して、全体でみると「インターネット・SNS」が39.2%で最も高く、次いで市ホームページが33.2%となっています。

21ページ、問17 門真市内の文化的資源等の認知度については、回答全体でみるとルミエールホールのイベントにおいてアンケート調査票を配付したこともあり、「ルミエールホール」が最も高く73.4%、次いでふるさと門真まつりが48.4%、30%台の回答となったのは中塚荘、歴史資料館、河内レンコン、砂子水路の桜、関西フィルとの連携となりました。10代以下では、この中に「ルミエールホール」が47.9%の認知度となったものの、「この中に知っているものはない」が36.4%となりました。

次に22ページの問18 自由記述でのご意見をご覧ください。いただいたご意見を分類別に記載しています。

文化芸術にかかる環境整備についてのご意見では、「魅力的なコンテンツ（海外美術館の芸術作品展示や、現代アート、没入型のデジタルアート）を地元で見たい」や高齢者の参加促進や、障がいを持った方が文化芸術を知るために施設訪問してほしいなどの意見がありました。

学習機会の創出についてでは、「小・中学校では門真市の芸術振興に触れる機会は多いが、高校からは機会が減っている。高校生にも門真市について知ってもらるべきだと思う。」という意見や、その他、「関西フィルハーモニー管弦楽団がルミエールホールを拠点に活動していることを誇りに思う」や、「門真市にゆかりのある有名人が大使になられたり、市内でコンサートを開催してくださることで親しみを感じ、門真市が盛り上がっていることを嬉しく思います。」という意見がありました。

最後に、23ページ、24ページをご覧ください。

こちらは、問6の「この5年間で、門真市の文化芸術活動は活発になったと思いますか。」の質問に対して、「全くそう思わない」、「そう思わない」と答えた人に絞って集計・分析したものです。アンケートの集計・分析にあたり、本審議会の

B 委員にアドバイスをいただき実施いたしました。

問 6 の質問に対して、「全くそう思わない」、「そう思わない」と答えた人は、アンケート回答者の約 2 割の方で、問 5 の文化芸術活動に関わっていますかの集計結果をみると、「趣味として自ら創作・発表などをしている」と答えた人の割合が、全体よりも高い結果となりました。

また、24 ページ下段、問 11 では、問 9 の文化芸術活動をしているかどうかの質問で「特に活動していない」と答えた人に対して、文化芸術活動をしていない理由を聞いています。集計結果は、「活動に関する情報が少ない」、「学ぶための教室や講習が少ない」と答えた人の割合が、全体よりも高い結果となりました。

これらの結果から、アンケート調査の問 6 で、「この 5 年間で、門真市の文化芸術活動は活発になったと思いますか。」の質問に対して、「全くそう思わない」、「そう思わない」と答えた人は、実際に文化芸術活動を行っており、活動を行う中で「活動に関する情報が少ない」、「学ぶための教室や講習が少ない」と感じていることがわかりました。23 ページ、24 ページの説明は以上です。

続いて、本日の追加資料で「60 歳以上の回答者のデータ集計について」をご覧ください。

9 月 18 日の木曜日に開催いたしました、門真市文化芸術推進基本計画庁内検討委員会において、アンケート回答者については高齢者の方が大半であるため、10 代以下の若年層だけではなく、高齢者の方についても分析した方がよいのではないかという意見があったため、60 代以上のアンケート回答者、977 件について着目し、集計・分析いたしました。

回答者全体と比較して、結果に差があったものなど、結果に特徴があったものを抜粋して説明いたします。

1 ページの下段、問 5 「現在、どのような形で文化芸術活動に関わっていますか。」をご覧ください。回答者全体では、文化芸術活動に「特に関わっていない」と回答した人が 45.6% の割合ですが、60 歳以上では 30.2% となっています。また、「ボランティアスタッフとして関わりがある」、「趣味として自ら創作・発表などをしている」、「鑑賞や観覧など、観客として関わりがある」が増加していることから 60 歳以上の回答者は何らかの形で文化芸術活動に関わっていると考えられます。

次に、2ページの下段の問9「あなたはこの1年間にどのような文化芸術の分野で活動されましたか。」をご覧ください。問5に続いてこの設問においても「特に活動していない」と回答した人が回答者全体の割合よりも少なくなっています。何らかの文化芸術活動を行っている人が多いことがわかります。

続いて、3ページ上段の問11「問9で特に活動されていない」と回答された方の活動しない理由をお聞きした設問をご覧ください。「文化活動にあまり関心がない」、「時間的余裕がない」の回答数が回答者全体よりも低いため、文化芸術活動をしたいが「学ぶための教室や講習が少ない」や「活動に関する情報が少ない」などの理由により文化芸術の活動をしていない人が多くなっていると考えられます。

次に、3ページの下段、問13「この1年間にホールや映画館などで鑑賞した文化芸術はどのような分野ですか。」をご覧ください。「特に鑑賞していない」の回答数が回答者全体よりも低く、60歳以上の回答者においては文化芸術の鑑賞をしている人が多いことがわかります。

最後に、4ページの問14「問13で特に鑑賞していない」と回答された方の鑑賞しない理由をお聞きした設問をご覧ください。「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」、「時間的余裕がない」の回答数が回答者全体よりも低くなっています。「施設や場所が近くになかったり、交通の便が悪い」の回答数が回答者全体よりも高く、60歳以上の回答者においては、近くでイベントがなかったり、交通の便が悪いことから文化芸術の鑑賞をしていない人が多いと考えられます。

当日配付資料、「60歳以上の回答者のデータ集計」についての説明は以上です。

アンケート調査結果から見えてきた課題や総括については、次の案件3の計画素案の議題において説明しますので、よろしくお願ひいたします。説明は以上でございます。

【会長】

アンケートの結果、いろいろまとめていただきまして、まずここで一度ご意見をいただきたいと思います。B委員については提言いただきありがとうございました。B委員どうでしょうか。

【B委員】

はい。すごく丁寧にまとめられていて、かつ、分析も的確にまとめられてると思ってます。

後ほどの報告の方でもあると思うんですけど、一番はやっぱりそもそも関心がないっていう人たちが多いっていうところで、そこにどうアプローチしていくかっていうところが課題になるだろうなと思います。

で、面白かったのは、意外と口コミがいけるんだという。10代は、友人とか家族からの情報を頼ってると言いますか。紙メディアよりも、口コミ、人からの情報が多いっていうところで、そこをうまく伝われば、友達づてで引き込んでいくみたいなことができるのかなとか思ったりしました。

面白いのでいっぱいしゃべっちゃうんですけども、10代の人たちで、評価が高い、活動が良くなってきたって言ってる人たちは、場所とか機会があるっていうところがある。そして自分で活動してるからだっていうことが、わかったなと思います。

一方で、大人たちの活動がまだそんなに門真市は高くないですよっていう人たちは、割と意識高い系というか、すでにやってる人たちが、さらにもっと良きものって求めたときに、なかなか思うような形がないのかなというふうなことも、ちょつと思いました。

アンケートに関しては感想としてはその辺りで、分析についてここはどうなってるのかっていうような質問は、私からは特にないです。

【会長】

ありがとうございます。A委員どうでしょうか。

【A委員】

僕も、今、これ拝見してて、なるほどと思うところもありますが、さほどにこの見慣れて分析する力があるっていうわけじゃないので、どう反応したらいいのなというふうに考えていたところです。私なんかの場合だと、エンタメ性の低いっていうか、そんなところで日々活動していますから、パイも小さく刺激も少ないみたい。まあ刺激が少ないってこともないと思いますけど。何となくこのアンケートに反映されにくいような分野であるかと思いますので、普段からこういうものに対

する、きちんと反応する素養がないというか、そんな状態です。

【会長】

現実的には音楽とか中心になってますよね。Aさんやっておられるアートといいますか、芸術祭みたいなものがありますけれども、ちょっとそちらの方面が弱いですね、何となく。

【A委員】

Cさんのご意見もそうですけど、どこか弱いところを持ち上げていくっていうような感じのことをするっていうのも、ほど遠い感じもします。

【会長】

ありがとうございます。副会長どうでしょうか。

【副会長】

ものすごく細かく分析されていて、いろいろ考えさせられるとかあるんですけど。12 ページのイベントの実施場所やアクセスについてのところですけど、「門真市駅方面に集中しており」ここがすごく印象的で。今の世の中が反映されている。特に高齢者はそう感じているんだなとすごく思いました。

それからその下の一部の団体が優遇されているというのは、これはどういう意味でしょうか。僕は逆に一部の団体を優遇する試みがあってもいいと思っていて。実は、ご意見もありましたけど、何々のまちというのを思い切って打ち出したらどうかという話ですが、これで言うと音楽は一番親しみやすいんですけど、逆に伝統芸能は全然なかつたんですけど、例えば文楽のまちにしてしまうとかね。何かそういう発想があってもいいのかなと。同時に後で議論せなあかんと思うんですけど、10 代以下っていうところで、やっぱり教育委員会との連携というか。うちのまちは将来この方向に行きたいから、教育の分野でもここのところを充実させたらどうかなとか。そういう連携があつたらもっと効果があるのかなと思うことが一つ。

それから、へーっと思ったのは、広報かどまと公式LINEを通じた回答が結構あって、これはもっと使ったらいいのかなと思ったんですね。例えば、何でもいい

んですけど、アーティストのどなたかをずっと掲載するとかね。広報紙って絶対見られますよね。例えばその方が文楽やとしたら、文楽の雑誌を買って見る人は皆無に近いけど、毎回広報に載ってたら、へーそんなんやって読むみたいな。そういう育て方もあるのかなとすごく思いました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。全体の印象としては、実際にこの「文化芸術活動」としてアンケートをとると、結構答えにくい人が多いんじゃないかなというような感じはしますね。かなり前向きに積極的な活動を求められているような印象を受けられるんじゃないかなという。そのようなことも少しあるかと思うんですが、全般的に門真市ということを思いますと、高齢者の方が結局文化的なものを支える層として、あるいは、参加する層としての現状全部中心になるんじゃないかななど。

今、副会長おっしゃったように、教育委員会とずっとやっていくという地道な努力もいると思いますし、当面としてはやはり、ある程度高齢者を中心にして考えていた方が、文化活動の支援としては前向きにいくんじゃないかなという印象を受けました。

それから女性ですよね。これはもうどこの美術展でも、コンサートもほとんど女性が行っていますよね。あんまり男性は見かけないということであれば、文化的な活動についてはやはり女性ということも1つ視点として置いていくということと、その辺をこのアンケートを参考にして進めてもらって、いろいろご意見いただいたようなところも、最後に総括していったらどうかと思います。

また後でご意見出るかもしれません、次の議題ですね。見直し案ですね。

【事務局】

案件2「門真市文化芸術推進基本計画素案（中間見直し版）について」事務局より説明いたします。資料3、計画素案（中間見直し版）の3ページの目次をご覧ください。

今回の会議では、第Ⅰ章「はじめに」から第Ⅱ章「文化芸術の現状と課題」までご説明させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

では、計画素案の5ページをご覧ください。

1. 中間見直しの趣旨についてでは、計画のコンセプトや中間見直しにかかる経緯について記載しています。

下段の 2. 計画策定後の主な動向では、コロナ禍における文化芸術にかかる国・府の動向などを記載する予定です。

続いて、7ページの 1. 市民アンケート調査結果（抜粋）をご覧ください。計画素案に掲載する市民アンケート調査結果については、アンケート調査結果報告書から、主だった質問を抜粋した形で掲載しています。

アンケート調査結果については、先ほど案件 2 で説明いたしましたので簡単に説明をさせていただきます。7ページにアンケート調査結果概要と、問 5 「現在、どのような形で文化芸術に関わっていますか。」の結果とコメントを掲載しています。コメントについては、『文化芸術活動に「特に関わっていない」が 45.6% で最も高く、次いで「鑑賞や観覧など、観客として関わりがある」が 22.8%、「趣味として自ら創作・発表などをしている」が 17.4% となっています。また、10 代以下で文化芸術活動に「特に関わっていない」と回答した割合が 79.0% と非常に高くなっています。』としています。

続いて、8ページをご覧ください。8ページには、文化芸術活動にかかる質問、問 6 と問 7 の調査結果とコメントを掲載しています。コメントについては、『この 5 年間で、門真市の文化芸術活動が「活発になった」と答えた人が約 40% となっています。「活発になった」と答えた人が実感している変化として、「地域のイベント等に参加しやすくなった」が 39.3% で最も高く、次いで「文化的な魅力や雰囲気が増した」が 33.5% となっています。』としています。

次に、9ページをご覧ください。9ページでは、文化芸術の活動状況にかかる質問、問 9 及び問 11 の調査結果とコメントを掲載しています。コメントについては、『問 9 のこの 1 年間の文化芸術分野の「活動」について「問 9 のこの 1 年間の文化芸術分野の「活動」状況について「特に活動していない」が 48.0% で最も高く、次いで「音楽」が 19.7%、「地域における文化活動（盆踊り、だんじり、ひんや節など）」が 8.9% となっています。問 9、問 11 の設問における 10 代以下の回答について、「特に活動していない（問 9 : 69.6%）」、「文化活動にあまり関心がない（問 11 : 60.2%）」と回答した割合が非常に高くなっています。』としています。

続いて、10 ページでは、文化芸術の鑑賞にかかる質問、問 13 と問 14 の結果とコ

メントを掲載しています。コメントについては、『この1年間にホールや映画館などで「鑑賞」した文化芸術について、「音楽」が35.2%で最も高く、次いで「映画」が30.0%、「特に鑑賞していない」と答えた人が27.3%となっています。「特に鑑賞していない」と答えた理由として、「時間的余裕がない」が35.1%「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」が27.3%、「興味のある催しものが少ない」が21.0%となっています。10代以下の問13「特に鑑賞していない」(49.0%)と問14「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」(37.4%)と回答した割合が非常に高くなっています。』としています。

次に11ページをご覧ください。11ページでは、問17「市内の文化的資源等の認知度の調査結果及びコメント、12ページでは、問18の自由記述回答を掲載しています。

13ページをご覧ください。こちらは、アンケート調査結果の総括で、アンケート調査の結果から見えてきた3つの課題を掲載しています。一つ目が、「市民アンケート回答者の約半数が、文化芸術活動に「特に関わっていない」、「特に活動していない」と回答しています。また、60歳以上の回答者がホールや映画館などで文化芸術分野にかかる「鑑賞をしていない」理由として、「施設や場所が近くになかつたり、交通の便が悪い」が回答者全体のデータと比較し、8.3%高くなる結果となりました。南部地域におけるイベントやアウトリーチの実施、障がいを持っている人も含めた誰もが気軽に文化芸術活動を実施し、鑑賞できる環境づくりが重要です。」としています。二つ目が、「若年層にむけた取組の実施」で、「市民アンケート調査の結果から、10代以下において文化芸術に関心がないと答えた人が多いこと、市内の文化的資源等の認知度が低いことから中学生音楽鑑賞会やアウトリーチコンサートを実施し、幼少期から10代にかけて文化芸術活動に触れたり、鑑賞する取組を継続するとともに、SNSを利用した積極的な発信を行うなど若年層にむけた取組を充実させる必要があります。」としています。

最後に、「情報発信の充実」で、「市民アンケート調査において、市の文化芸術活動が活発になっていないと答えた人の文化芸術活動を行っていない理由として、「文化活動にあまり関心がない」、「時間的余裕がない」に次いで、「活動に関する情報が少ない」が多く挙げられました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携やKADOMADO、ルミエールホールなど門真市が有する文化芸術にかかるコンテンツの魅力を発信するための情報発信プラットフォームの構築するなど情報発信を

充実させる必要があります。」としています。

次に、14 ページをご覧ください。14 ページから 17 ページは、本計画の施策の展開に向けた基本方針の「4 つの柱」に基づいた取組の実施状況について記載しており、下段にはイベント等の写真を掲載して、取り組みに対するイメージがつきやすいようしています。14 ページの柱 1 「市民の文化活動の活性化」の基本方針は、「市民（団体）の文化活動の支援」「地域の文化活動の支援」、「身近な文化活動の促進」、「学校教育での文化芸術活動の推進」としており、主だった取組 5 つを記載しています。

- ・ 大和田駅前広場を中心として、アートイベントやアート作品の展示を行う「KADOMA ART FES」の実施
- ・ 学校教育での文化芸術活動推進として、関西フィルハーモニー管弦楽団による中学生音楽鑑賞会の実施や、小学校 4 年生を対象としたプロの演奏家によるアウトリーチを実施
- ・ 障がいのある方や高齢者の作品展「きらめきアートフェスタ」の開催
- ・ 唄と踊りからなる門真市伝統的民俗芸能「ひんや節」を門真市地域文化財第 1 号に指定

としています。

次に、柱 2 魅力的な文化芸術活動の充実と文化的な資本の蓄積の取組状況について説明します。基本方針は、「市民による多様な創造活動の支援」、「文化芸術活動のための資金調達の支援」「アーティストの門真での活動の促進」、「活動場所となる施設や機会の整備」としており、4 つの取組を掲載しています。

- ・ 弁天池公園などにおいて市内中高生や市民による壁画アートの制作を支援
- ・ 関西フィルハーモニー管弦楽団によるふるさと納税の返礼品の提供
- ・ ルミエールホールなど公共施設の各諸室を提供
- ・ KADOMA ART FES の実施（再掲）
- ・ KADOMA ART FES のアート作品展示場所として市内空き店舗を活用

としています。

続きまして、柱 3 市民の情報発信力強化によるシティプロモーションの推進に

について説明します。

基本方針は、「個々の活動の発信力の充実」、「情報発信プラットフォームの構築」、「シティプロモーションの推進」、「門真を代表するコンテンツの創出」としており、主な取組としては

- ・ イベント風景などの撮影が必要な団体に、撮影者を紹介
- ・ ルミエールホールのホームページに、門真で活動するアーティストを紹介するページやかどまアーティストバンクのページを構築
- ・ 関西フィルハーモニー管弦楽団と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナ一協定」を締結
- ・ 門真市ふるさと大使の委嘱
- ・ 大阪・関西万博への出演

としています。

最後に、柱4 協働共創の場と機会づくりについて説明いたします。基本方針は、「文化芸術活動プラットフォームの形成」、「共有データベースやアーティストバンクの整備」、「市役所内部での理解の普及」、「事業者の文化芸術活動への参加促進」としており、主な取組は

- ・ 市民有志等が参画する門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト実行委員会の形成
- ・ 職員向けに音楽サロン研修を実施
- ・ 関西フィルハーモニー管弦楽団アンサンブルコンサートの実施
- ・ ものづくり企業ネットワークへの関西フィルハーモニー管弦楽団のリハーサル公開を実施

としています。

次に、18 ページをご覧ください。令和3年度から取り組んでいるパイロットプロジェクトのあゆみについて、写真付きで1ページにまとめています。

次に、19 ページをご覧ください。計画素案 19 ページでは、取り組むべき課題について記載しています。当初の計画書 12 ページ下段に記載しているとおり、当初の計

画では本市が取り組むべき 3 つの課題を魅力、価値、交流として設定しています。これらの課題は数年程度の短期間の取組ですぐに改善されるものではないため、今回の中間見直しにおいては当初の計画で設定した課題を踏襲し、計画素案の 19 ページでは、それぞれの課題に対する現在の状況について記載します。

まず課題の 1 つ目、「魅力」につきまして、当初計画では「これまで文化芸術を活用した公民協働による取り組みを実施してきましたが、まだまだその活動に対する市民の認知度や理解は浅く、さらなる活動の周知の徹底と、誰もが参加・参画したくなるような魅力づくりが課題です。」と記載しておりました。中間見直し時点の状況としては、「KADOMA ART FES の実施や、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携など、新たな文化芸術に関する取組を進めています。文化芸術に関するハードルを下げ、誰もが参加しやすい環境づくりを推進する必要がある。」としています。

次の課題の 2 つ目、「価値」につきまして、当初の計画では「誰もが平等・公平に文化芸術にふれられるようにと参加・入場、無料としている取り組みがまだまだ多く「有料でも観たい」「作品を所有したい」「やってみたい」など、文化芸術の「価値」への理解向上と認知共有が課題です。」と記載しておりました。中間見直し時点の状況としては、「有料イベントになるとチケットの売れ行きが落ち込むといった状況は現在も変わりはありません。文化芸術活動に参加することによって、参加者間の交流機会の増加や、参加者の居場所づくりにつながることなど、様々な切り口で文化芸術の価値の理解普及に努める必要があります。」といたしました。

最後に 3 つ目の課題、「交流」につきまして、当初計画では「文化芸術活動、特に伝統文化において担い手・人材の不足は深刻な課題であることは言うまでもなく、世代間での交流や活動場所の共有、SNS の活用など、若い世代へのアプローチを効果的に行っていくことが課題です。」と記載しております。中間見直し時点の状況としては、「市民アンケート調査結果では、10 代以下において文化芸術に対する関心が低い状態であることがわかりました。既に実施している中学生音楽会や若年層に対するアウトリーチなど幼少期から文化に触れる機会を拡充するとともに、長期的にはアートマネジメント人材（文化の作り手と受け手つなぐ役割を担う人材）の育

成が必要である。」といたしました。

20 ページについては、コラムを掲載予定で、上段に市民ミュージカルもしくは関西フィルハーモニー管弦楽団の活動紹介、下段に来年5月にオープン予定の文化創造図書館 KADOMADO の紹介を掲載予定です。

説明は以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。中間見直しということで、それの中間的な現状報告ということで、報告書今作成途中のものを見せていただきまして説明いただきました。これについてはどうですか、ご意見また。順番に行きましょうか。B 委員から。

【B 委員】

はい。ありがとうございます。すごくアンケートを活用して、実態のある計画を立てていらっしゃるなと思います。その中にもしアドバイスといいますか、加えると、市民っていうものを大きく捉えるんじやなくて文化芸術の段階で言うと、一番深く関わっていただくようなアートマネジメント人材が最後にいらっしゃるとなったら、その手前には、もしかしたら自分たちで何かやってる人たち、その手前には鑑賞してる人たち、でその手前には、初めて見たっていうような人たち、そしてそのまた別のところには全く関心がない人たちというような形で、市民っていう人たちと文化芸術の関わりを階層分けしていくと、それぞれに対しての戦略がとれるんじゃないかなというふうに思いました。

もう一つが、13、19 ページとかに「参加しやすい」とか「触れる」っていうのは、どういう意味で使っているのか。つまり見るっていうことなのか、もしかしたらボランティアのように参加するとかいうような形の触れるとかいうのもあるんじやないかっていうので、触れるということ自体が一般的には割と鑑賞するってことになりますがちなんですけれども、実はボランティアとか何かしらのお手伝いをするっていうところから始まるような文化芸術との関わりっていうのも、すごく増えてきてるんじゃないかなというふうに思います。

特にこの KADOMA ART FES は、お手伝いをする、交流の機会から始まるチャンスがたくさんあるので、来場者数よりもボランティア数の方がカウントしたほうがいいんじゃないのかというような、そういう仕掛けなんだ、見る場所じゃなくて参加する仕掛けのパイロットプロジェクトなんだみたいな形の設定をすると、もしかしたら次の段階に動くんじゃないかなとか。あるいは若い人たちがポスター貼るの手伝いましたみたいな形で関心を持ってくれるとか、あとは、ご老人たちが留守番受け付けとかずっとやってくれるとか。そういうような、人の文化に関わる階層を想像するっていうことと、鑑賞以外の触れるっていうものは何だろうっていうのをちょっと想像すると、面白いことができるんじゃないかなというふうに思いました。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。A 委員どうでしょう。

【A 委員】

ちょっと気になりましたのがね、この課題その 1 魅力っていうところに、KADOMA ART FES の実施、関西フィルハーモニー管弦楽団って 2 つ書いてありますけど、何かやってる内容というか、レベルが違いがありすぎるっていうような印象です。これをもって、文化芸術に関するハードルを下げって書いてありますけど、こっち側は、例えば関西フィルはこれでハードルが下がるっていうようなことって、きっとそういう疑惑とか何もないと思うんです。片方、海外や彫刻やみたいなアートフェティバルっていうと、何かしらハードルを下げないと、人が集まれへんみたいな、なんかそういう感覚があると思うんです。果たしてそんなハードルを下げるに意味があるのかみたいなことをもう一回考える方がよさそうに思います。そもそもエンターテイメント性が薄いものなので、そのたくさんの人人が関わったから意味があるとか、っていう意味で多分ハードルを下げるっていう疑惑を持ってはると思いますけど。何となくイベントも、このお祭りのムードでやってると非常に、もしかすると関心の高い人が近寄りがたいものになっていくみたいな。逆の効果はありそうな気はします。逆の効果と言うか、逆に働いていくようなことになっていく。関心の高い人が見るべきもんやと思えるものっていうのはもちろんコストがか

かるし、エネルギーもいるし、今ここで取り組むべき課題やって僕は言いたいわけじゃないんです。だけど、一方的にその機会があつてハードルを下げていって、ほわっと多くの人に滲ませてっていうことで、関心が高まる部分と低くなる部分は、自ずとあるやろうと。もう少しクオリティの高いもの、あるいは美術・芸術に関心の高い人が、このお祭りをピント合わせて見に行くかというと、そういう意味では何か関心のないものの方へ、わーっと引っ張られていくような気がします。僕わからぬですよ、実際に見たことがないので。この風景見ると、この写真のコントラストだけでも、レベルが違いすぎて、同じ魅力のところに枠組みはめるのはちょっと難しすぎるような気がしました。

あとは交流というところ。そういうマネジメントしはる人って音楽の方とかだと、割合プロの方もいらっしゃって。片方は、何となくボランティアの人たちが、ふわっとやってるみたいな感じのことやってはんのかなと思って。その予算の限られた中でどうやって発信していくとか、企画していくかになっていくと思うんですけど、ちょっとこの話で言うと、同じ土俵で語りにくいことが一緒にいてるなっていう印象を受けました。

【会長】

当時から推進計画ということで、いわゆる芸術文化の各ジャンルというか、それぞれ評価していくという流れがありましたから、その中で音楽活動が今突出しているというのは事実ですね。以前は、当初のはそこまでなかつたんですけども、その後関西フィルが入ってきて、さらにそういう充実度が高まったというようなこともあります。事務局の方としては一応いろんなものをまず挙げて、その中のチェックというふうなことになるんだろうと思うんですが、確かに規模感であるとか、充実度であるとか、その辺、ちょっと見分けながら進めていくことが当然必要だと思いますし、A委員のご意見大変結構かというふうに思います。あとアートフェスですね、これを逆に言うともう少し盛り上げられるような手法をこれからまた検討いけたらというふうに思います。

【A委員】

僕ちょっと言いたかったんは、盛り上げるためにハードルを下げるっていうよう

な、その言葉のこの文言、何となく効果的に働くんかな、そういう全体のハードル下げてお祭りしましょうというのは効果的に働くっていうような感じのことではちょっとなさそうな気がするなという思いがあったので。

【会長】

アンケートでも海外のものを見てみたいとか、入場料出してもそういう充実したもの、アート展を鑑賞したいという希望も一部にあるわけですから、その辺も踏まえて、どういうふうにやっていくかということになっていくんじゃないかなと思います。

【B委員】

ちょっとだけ。先生のお話を聞いて、例えば、うちの大学だったら芸術作品美術作品を見ながらの対話型鑑賞っていうようなことをやってて、作品をよりよく、より深く、みんなとおしゃべりしながらやるっていうような鑑賞会をやってるんですね。それで鑑賞会はやっぱり、いい作品だとむちゃくちゃ面白くなるんですよ。逆に拙い作品だとすぐ終わっちゃうみたいな感じであるので、こうした鑑賞会的なものを入れたりすると、見る面白さとか、より深く見ると、A先生のような作品、抽象的な作品っていうものも、より深く見ていくっていうようなものも、ぐっと見る人たちのレベルアップみたいなところも入れられるんじゃないかなと思いますね。

【会長】

この委員会自身は割と基本的というか、総括的な扱いをしておりますけれども、アートフェスそのものについてあれば、こんなやり方もあるんじゃないとか、もう少し絞ったご提言、各先生方からもお聞かせいただけるような機会もあると思いますので、今のご意見だとか、音楽の方ももちろんそうだと思いますけれども、この部分についてもいろいろ直接でも意見やりとりしていただいて、全体を充実するようになればいいんじゃないかなと思います。朝倉先生どうですか。

【副会長】

僕もね、A先生と同じところに引っかかってまして。文化芸術に関するハードル

を下げるみたいな、これね、誤解を非常に招きやすい表現で、例えばハードルを下げる芸術展はレベルが低いのかとか、そんな誤解も受けますし、ハードルっていうのは何をもってハードルとするのかという。わざというと、文化芸術っちゅうのはハードルが高いもんなんじやと開き直ってもいいぐらいなんですけども、ちょっとこここの表現でどうしたらしいかなってずっと考えてたんですけど、先ほどおっしゃってたような意味合いが反映できるような何か言い回しないかなとか伺いながら考えてたんですけど思い浮かばず、誤解を招くかなっていう感じですね。

それから、そこのページの交流の、当初の計画ですね、さっきちょっと触れましたけど、特に伝統文化において担い手・人材の不足は深刻な課題であることは言うまでもない割には中間見直しでは何も触れてないんですね。これ、音楽鑑賞ってなっちゃってるんですよね、話が。だからここは当社の計画をもう少し、正面から受け取るなら違う表現が出てくるのかなと。そうすると、アートマネジメント人材ってのはまた意味合いが変わってくると思いますし、それからアートマネジメントを担う人材のイメージとして育成が必要であるって、何か、いたらしいよなあぐらいの、これ、育成が必要であるってのはなんか、だからどうなんだと。必要であるというと、そりやそうなんやけどっていう。

それから、先ほど出てましたアートを鑑賞する場合のいろんな工夫とかいうのはぜひやっていただきたいなと思います。

あと質問なんんですけど、14 ページの「ひんや節を門真市地域文化財第 1 号に指定」っていう、これあんまり知らなくて、この場でもあんまり説明があったことはなく、なんだろうなっていう。ちょっと教えていただきたいんですけど。何かいいことあるんですか。指定されると。

【事務局】

そうですね。地域の伝統文化ということで、ずっと地域の方が伝統芸能ということで踊られてたんですが、一時、ひんや節を継承する時期がなくなって、また改めて、ひんや節を引き継ぎ地域の伝統文化ということで、広めたいと考えていらっしゃる団体さんがいて、その方々が一生懸命地域の盆踊りであったり、今回は大阪・関西万博でひんや節を披露されたりとかしています。ひんや節って歌と踊りがあるんですが、「ええ日や」ええひんやという歌詞で始まる歌で、そういった昔あった

ものを、今、改めて、昔こういう歌や踊りがあったんですよっていうのを広められているので、その活動に対して、我々市として、昔からの伝統文化民俗芸能として一昨年、指定させていただきました。その方たちの活動を支援するという意味で、これから発信していきたいなと思います。ひんや節を知ってらっしゃる方っていうのは、今は大分減ってきてるので、昔からこういう踊りがあった歌があったっていうのを今、門真市民の方にも知っていただきたいなという思いで活動されてる団体ではあります。

【副会長】

で、その伝統文化の担い手、人材の部分ってなってきますよね。

【事務局】

はい。やはりこの団体さんに関わられてる方は高齢の方も多いということで、若い女性の歌い手さんも入ってらっしゃったりとかするんですが、やっぱり数としてはすごい少ないので、おっしゃるように担い手不足というのは常におっしゃられますので、そういうところをどう我々として支援できるかっていうのは考えていかないといけないところかなと。

【副会長】

その辺が課題か今後の展開の部分にちょっとあってもいいんじゃないですかね、はい。

【会長】

ありがとうございます。写真で大体主なものが出てますね。ひんや節もそうですけど。地域的にちょっと偏りがあるんでしょうね。

【事務局】

例えば冊子にひんや節のコラムとか入れさせていただくとかいう形もあっていいのかなと。まずは知っていただくっていう。

【会長】

地域文化財っていう名称も初めて聞きましたけど、条例か何かで決まってるんですか？

【事務局】

そうですね、条例がありまして、地域文化財と指定文化財とあります、指定文化財は専持人埴輪という埴輪があるんですけど、こちら（ひんや節）は物ではないので、地域の文化財ということで。

【副会長】

担当は教育委員会なんですか？

【事務局】

生涯学習課、歴史資料館です。

【会長】

わかりました。途中経過ということでこの辺の文言をもう一息検証ということで。それから今、ご意見あったところを少し修正していただいたらと思いますけども、全体的な流れは非常にいいと思いますね。整理できてるんじゃないかと思います。この後も充実させていってもらえたなら。このアートマネジメント、パイロットプロジェクトのチームですね、これはまず大事ですよね。これが上手く充実すればいいんじゃないかと思います。アート方面でのリーダーシップも何か要るんじゃないかという気がいたします。市役所と一緒にになってやっておられるんですよね、これ。市の文化担当が要は横断的な。

【事務局】

そうですね、実行委員会が形成されまして、市民の方と。

【会長】

実行委員会ですね。割と大事なことだと思いますので、引き続き推進していっても

らえたらと思います。では、次参りましょうか。今後のスケジュールですね。

【事務局】

それでは、案件3 「計画改訂のスケジュール」につきまして、資料4に沿って説明いたします。

本日の会議でいただきましたご意見を踏まえまして、計画素案の修正及び、第3章の作成を行います。

12月22日（月曜日）から26日（金曜日）までの期間に、3回目の審議会を開催し、施策の展開も含めた計画素案の確認及びパブリックコメントの実施についてご説明します。

庁内検討委員会及び審議会でのご意見を受けて、計画素案の修正を行い、素案を決定し、令和8年1月中にパブリックコメントを実施するとともに、2月に文化芸術法第7条の2に基づく教育委員会への意見聴取を行います。

令和8年3月に4回目の庁内検討委員会及び審議会を開催し、パブリックコメントを踏まえた改訂案の審議、答申を行い、計画改訂版を確定する予定です。

3月～4月にかけて市ホームページ等により周知を行う予定としております。
説明は以上です。

【会長】

ありがとうございます。ということで、今度12月ですか。12月後半くらいにやる予定で、メールで日程調整ですね。素案の確認ですね。2か月くらい期間ありますけど、今日の意見踏まえて進めていただくということと、その間にまたいろいろご意見いただけるところありましたら、事務局の方にご提出いただければ結構かと思います。

一応議題は終わっていますけれども、まとめとしまして何か全体的なところでご意見一言ありましたら、B委員からお願いします。

【B委員】

はい。でも本当にここまでご苦労様でした。先生方の意見もなるほどと思うことが多くて勉強になりました。何かいい形で門真市が、文化のまちとして注目される

ようになるとすごく嬉しいので、はい。これからも、よろしくお願ひします。

【会長】

ありがとうございます。A委員いかがですか。

【A委員】

いつもこんな話するんですけど、何のお役に立てるのか自分自身が全体を把握するのに時間がかかるというところですが、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

【会長】

ありがとうございます。副会長いかがですか。

【副会長】

本当に以前から、門真市は割ときめ細かくというか、全序的な取り組みとして、これをやられていて本当それはすごいなと思っております。ただ本当にこれは雲を掴むようなところもあり難しい。でも、それが、市がどんどん変わっていくきっかけになればと思ってますし、本来難しいこと考えずに楽しんだらいいものなんで、それこそ楽しめるようなまちになついたら、先立つものもいるとは思いますけど。ありがとうございます。

【会長】

今副会長から話ありますけど、先立つものですね。いよいよこれ（文化芸術）を充実させていくとなると、やはり必要だと思いますし、公民協働ということで、民の方からの協力もちろんもあると思うんですが、公の方がリーダーシップをとってですね、ぜひ文化的な予算も一度充実させてもらう。これは内部でまたぜひ市長にもご提言いただけたらと思います。そういう内容も含めて、最終的には答申させていただこうかと思います。では後の作業また進めていただきまして 12 月によろしくお願ひいたします。